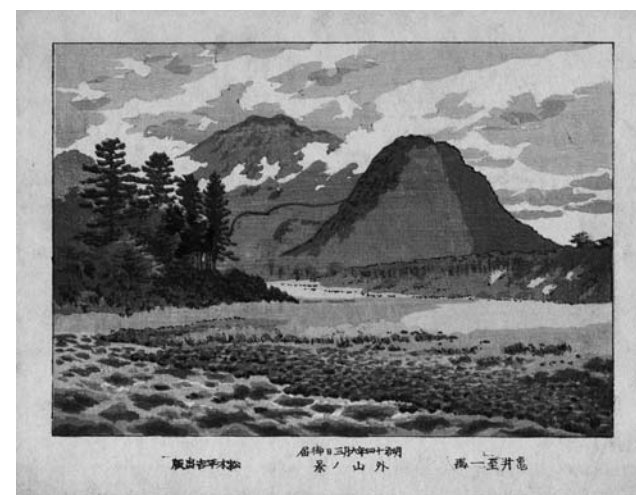


ギャラリー ⑨

「外山の景」



亀井至一作 1881(明治14)年 木版画(松本平吉出版)
17.1cm×23.0cm 小杉放菴記念日光美術館所蔵

このコーナーでは、市で所有する絵画を紹介します。

古くから、日光の名所を描いた刷り物は数多く出版されてきましたが、世界遺産「日光の社寺」の近くにそびえる外山(萩垣面)をメインにした作品は比較的珍しいものです。

作品の出版元の松本平吉は、老舗の版元である大黒屋の主人です。松木は、銅版画や石版画といった新しい印刷技術がもてはやされた明治時代にあっても、伝統的な木版画にこだわり続けました。

そして作品の原画を描いたのは、亀井至一(1843～1905年)という、江戸生まれの洋画家です。亀井は、松木に紹介された洋画家で写真家でもある横山松三郎に師事した後、玄々堂という印刷会社で石版画を中心に活躍しました。日光へは何度か訪れており、1879(明治12)年の写生旅行とともに、本作を含む木版「日光名所」のシリーズ全20作が、1880年から翌年にかけて刊行されました。

近年では、郡山市立美術館に、このときの日光写生を含む作品が寄贈され、公開が始まっています。これによって、今後、亀井と日光との関係が徐々に明らかにされていくことが期待されます。

日光市の文化財 ③

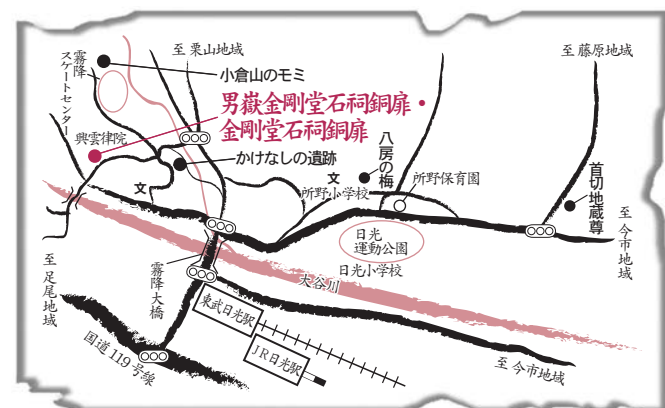
- ①男嶽金剛堂石祠銅扉(弘治2年銘)
- ②金剛堂石祠銅扉(永正15年銘)



【種別】有形文化財
【所在】日光市萩垣面
①平成2年3月16日旧日光市指定
②平成14年3月1日旧日光市指定

この二つの文化財は二〇〇三〇cmほどの大きさの石の祠の扉で、①は宿堂坊山頂付近、②は切込・刈込湖の北に連なる尾根で発見されました。近世の記録には、夏峰と呼ばれる夏季の修行(修験道の一環として行われていた、男体山と中禅寺湖の周囲の山々を巡る修行)が、天正年間(一五七三～一五九一年)に断絶したと記されています。これらの扉にはそれぞれ一五五六年、一五一八年の年号が記されており、夏峰がこの時期に行われていたことを示す重要な資料となっています。いずれも興雲律院に保管されていますが、現在は修理中のため見学できません。なお、興雲律院の鐘楼門や三天堂、経蔵は県指定の文化財で、見学することができます。

今回で、所野・萩垣面の文化財の紹介は終わります。一連の記事と日光市文化財マップを片手に、ぜひ訪れてみてください。



情報化時代の調べもの

分からないことや気になって
いることがある場合、皆さんは
何を使って調べますか？
調べものなどをするときに、
その情報を探すことを「検索」
といいます。現在
ではパソコンや携
帯電話が普及し、
以前と比べて気軽
に調べものができ
るようになり、
「検索」という言
葉も身近になりま
した。以前は「検
索」とは主に、
「辞書や事典など
をひいて探すこ
と」や「図書館で
どんな本があるか
を調べる」とい
う意味で使われ
ていました。

パソコンの無い時代、図書館
で本を探す場合には、書名の出
だし部分が正確でないと探せず、
非常に不便でした。これがパソ
コンの登場によって、書名に含
まれる語句が合っていればすぐ
に探せるようになりました。し
かし、パソコンの役割は検索結



図書館へ行こう！

果を表示するまでで、その情報
の取捨選択の判断は、皆さんに
委ねられます。
検索されて出てくる情報があ
まりにも多く、混乱してしまう
場合もあります。利便性の高い
インターネットも、調べる手段
の一つとして考え、時間をかけ
られる場合は、本
や雑誌などの出版
物でも確認するこ
とをお薦めします。
本や雑誌は、いろ
いろな段階を経て
作られるため、情
報が慎重に扱われ
ています。さらに
本ならば、同時に
数冊の本を開いて
見比べることもで
きます。そして、
実際に自分自身で
本を探して調べる
と、より印象に残
り、その周囲の知
識まで豊かになります。

調べものの際には、検索の方
法を上手に使い分け、組み合せ
ることがポイントです。図書館
には調べものの用のパソコンや
さまざまな辞書や事典、図鑑など
があります。これらをぜひ活用
してみてはいかがでしょうか。

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

正月に孫来て論吉去つて行く 大堀 満
マニフェスト張り切り過ぎて肩がこり 白土武夫
破魔矢手に長寿を願う下駄の音 岩崎節子
初日の出受けて生命寿ぎる 桜沢あき子
野心まだ捨てず夢追う去年今年 篠原芳子
正月はせめて肴は出世魚 塚原トモエ
暴走の車と一緒に初詣 芳野起代子

俳句 選者 伊藤 清

閉山の幣の白さよ山眠る 福田美代子
ひと時の日溜りに舞ふ冬の蝶 渡辺ミチ子
静いの後のむなしさちろ虫 星野照子
昭和史をひもとく夫や秋深し 岡 登美代
黒土の高原大根厨入り 鈴木キヌ子
柿の実や身のほど知らずたわわり 篠原幸子
来年はきつと登るぞ秋の山 白土武夫

短歌 選者 阿久津伸一

抗はず生きてゆくことの気楽さに虚しきことのほのと紛るる 名古屋佳子
台風のことなく過ぎて雲脚の速き間にまに黄田照らす月 根立郷美
動くたびよいしよの掛け声リズムよく老いの動作も軽やかにして 金田満寿子
群れ咲きし紫桔梗の残り花二輪となりて色まさり見ゆ 高野恒子
どの家もたわなに柚子の色づきて集落は今初冬の香り 狐塚昭子
すすき野を肩寄せ合ひて歩みたる友を思ひて今宵は寝ねん 北崎 君
不老不死とふ花言葉知りてより夫婦で植ゑし葉鶏頭咲く 白土武夫

作品を募集しています！

川柳・俳句・短歌を募集して
います。氏名(ふりがな)、住所、
電話番号を明記して、ご応募く
ださい。
応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109